

## 「令和2年度 第3回 事業用自動車に係る総合的安全対策検討委員会」議事概要

日時：令和3年3月19日（金） 10:00～12:00

場所：WEB形式（中央合同庁舎3号館8F特別会議室）

出席者：野尻委員長、姉帯委員、石指委員、勝又委員、神谷委員、木場委員、酒井委員、  
坪田委員、高松委員、永井委員、榊野委員、堀野委員、和辻委員  
警察庁交通局交通企画課長、大臣官房運輸安全監理官、道路局環境安全・防災課長、  
自動車局長、自動車局次長、大臣官房審議官（自動車局）、大臣官房参事官（自動車（保障））、  
安全政策課長、技術・環境政策課長、旅客課長、貨物課長、安全・環境基準課長、整備課長

議事：

1. 事務局、事業者団体より議題（1）、（2）、及び（3）について説明の後、意見交換を実施

各委員の主な意見

- 追突はモードを横断して多発している事故形態であり、衝突被害軽減ブレーキの普及等、積極的に対策を検討すべき。
- 個人タクシーのマスターズ制度について、さらに効果的なPR活動を図っていくべきではないか。

2. 事務局より議題（4）について説明の後、意見交換を実施

各委員の主な意見

- 個人タクシーについては出会い頭衝突事故の個別目標ができたので、達成に向けて取組を進める。
- バスの車内事故、出会い頭事故等の削減に向けて、先進安全装備の装着にも力を入れていく。
- 運転者や運行管理者に対し、特に飲酒運転事故の撲滅に向けての取組を進める。
- 今後、業界におけるプランを策定の上、全国の会員事業者にも周知徹底を図る。高齢運転者対策として、健康起因事故の防止にしっかりと取組む。
- 今後、安全確保のために装置依存が進んでいくと考えられるところ、使用過程における装置の性能維持を支える、整備事業者の技能向上、環境整備に取り組む。
- 完成して終わりではなく、これからの5年間の始まりと捉え、対策の具体的な実装を進めるべき。
- 運転者の高齢化が進む中、健康面の管理について事業者が徹底すべき。利用者からも安全・安心の評価をされるようにアピールが必要。
- AIを中心とする先進技術の導入が重要であり、早期に現場で活用されることを期待する。
- モード別の個別目標、重傷者数に対する目標値が示されていることを評価する。運転中の異常時対応について、先進安全技術の積極的な活用が進むことを期待する。
- 安全安心を守ることは社会、運転者に対する約束であり、目標達成に向けて努力していく。
- 他国での優良事例研究も進めるべき。欧米との比較で物流業界における長労働時間対応は課題である。
- 安全装置の開発は車両安全対策検討会やASVで検討されているが、正しい使い方や普及も課題であるため、連携していくべき。

以上